

図書館員が選ぶ この一冊

54

『夏鳥たちのとまり木』 双葉社 奥田 亜希子／著

中学教師の葉奈子は、教え子の家出をきっかけに自身の過去と向き合うことになる。

母子家庭で悩みを抱えた中学時代、ネットで知り合ったナオの家で夏休みの2週間を過ごした。「大丈夫だよ」と言ってくれたこと、何も聞かず居場所をくれたこと、確かにその時の葉奈子には救いだったはずの出来事。しかし大人になった今、現代社会が抱える闇に気づき、忘れていた記憶から浮かび上がる真実に傷つきながらも、解決に奔走する。



随所で鳥の存在が印象的な本作で、過去の舞台となった千葉県北西部の町には、大きな沼やそこに架かる橋があり、近くには鳥の博物館があるという。著者は我孫子市在住。